ひと ひと
女と男の情報紙

HIMAWARI
Women & Men Information

ひまわり

Vol.25
2018.3.1

特集

男女共同参画社会の実現に向けて
あなたはどう思う？
～男女共同参画に関する市民意識調査から～



「熊本被災地との絆」
（大麻生小学校　琉球あさがおのグリーンカーテンの前）

熊本県上益城郡益城町立飯野小学校から、震災の支援のお礼としていただいた種から咲いたひまわりです。
きれいに力強く咲きました。

第12回 熊谷市男女共同参画推進表彰

昨年11月に開催した「第38回 フォーラムくまがや2017」において、男女共同参画の推進に貢献する取組が評価され、2つの事業所が表彰されました。

本表彰は、熊谷市男女共同参画推進条例の規定に基づくもので、平成18年度から実施しており、男女共同参画社会の実現に向け、積極的に男女共同参画の推進に関する取組を実施している個人・団体及び事業所を表彰するものです。

（掲載順不同）

株式会社 ホテルガーデンパレス

女性の職域拡大のため、男性ばかりの営業部門への女性の配置転換を推進するとともに、経験と実績により、女性を管理職として積極的に登用するなど、モチベーションアップを図っています。

また、社員一人ひとりの家庭環境や要望に配慮した柔軟な勤務体制づくりに取り組み、長く働き続けられる職場環境を整えています。



公益財団法人 西熊谷病院

育児と仕事の両立を支援するため、365日利用可能な保育所を設置しています。また、本人の希望により妊娠・出産、育児、介護等の状況に応じて雇用形態を変更できるようにするなどの取組を行い、埼玉版ウーマノミクスプロジェクトの「多様な働き方実践企業」認定制度のゴールド認定を受けています。今後も男女ともに働きやすい職場づくりに継続的に取り組んでいきます。

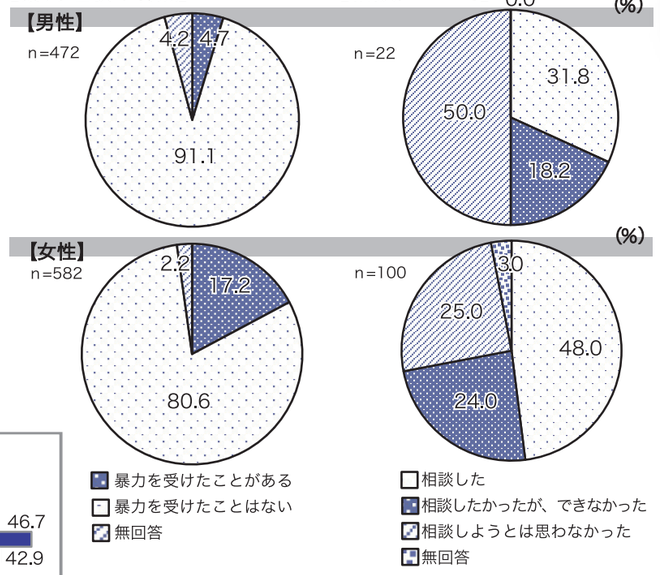


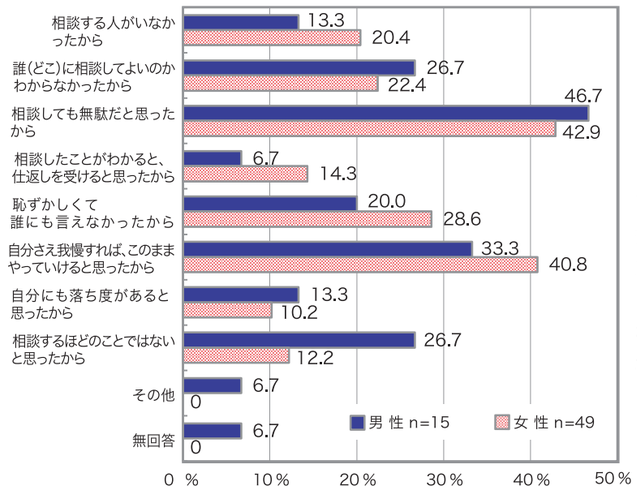
3.配偶者等からの暴力(DV)

過去、配偶者等からの暴力を受けた経験の有無について尋ねたところ、「ある」と回答した人は、男性4.7%、女性17.2%でした。

「ある」と回答したうち、「相談した」人は、男性31.8%、女性48.0%で、半数以上の人が相談していない状況でした。

注釈
「配偶者等」には、事実婚や別居中の夫婦、元配偶者のほかに、交際相手も含む。
「暴力」とは、身体的暴力のほか、精神的暴力、経済的暴力も含む。
「n」とは、その設問の回答者数を表わす。



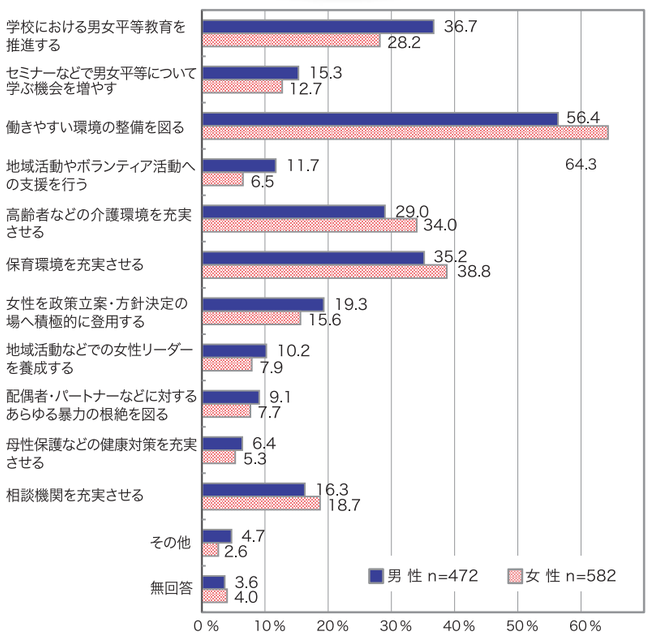


「相談したかったが、できなかった」「相談しようとは思わなかった」と回答した人にその理由を尋ねたところ、1番多かった回答は、男性は「相談しても無駄だと思ったから」、女性は「自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思ったから」でした。また、「誰(どこ)に相談してよいかわからなかった」との回答も20%以上となっており、相談場所の周知に課題があることがわかりました。

一人で悩まず、ハートピア相談室に相談してみて。
TEL 048-599-0015
※詳しくは裏面に。

4.男女共同参画社会の実現に向けて市で力を入れるべきこと

男女共に一番多かったのは、男性56.4%、女性64.3%と半数以上の人たちが、「働きやすい環境の整備を図る」と考えていることがわかりました。働くことに関連して、「保育環境を充実させる」「高齢者などの介護環境を充実させる」が高順位になっています。



市民意識調査から・・・

アンケートをとおして、男女の考えの差、また10年前との考えの違いを見てきました。

「夫婦の役割分担」は、10年前に比べて夫婦共同で家庭のことを行っていこうと考えている人が多くなってきていました。その一方で「男女の地位の平等感」は、男性の方が優遇されていると考えている人が多く、まだまだ男女共同参画社会へ向けての取組が必要とされています。

また、DVについては、誰にも相談できず一人で抱え込んでいる人が多くいることもわかりました。

男女共同参画社会を実現するためには、一人一人の考え、行動が大切です。できることから一歩ずつ、男女共同参画を意識して行動してみませんか。

特集 あなたはどう思う？
～男女共同参画に関する市民意識調査から～

熊谷市は来年度、男女共同参画推進の指針となる「熊谷市男女共同参画推進計画(計画期間：平成31年度から10年間)」の策定を予定しています。その基礎資料とするとともに、今後の男女共同参画施策に反映させていくことを目的に、平成29年8月に、20歳以上の市民の方を対象に男女共同参画に関するアンケートを行いました。

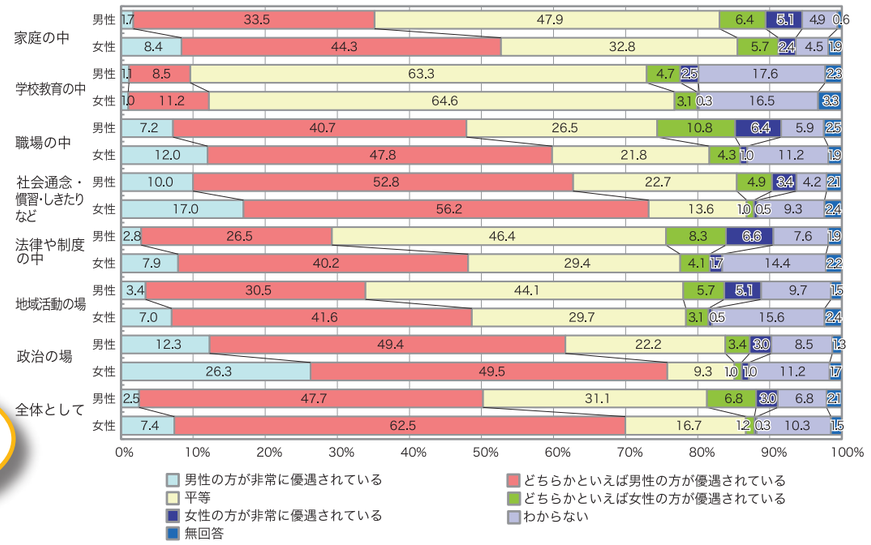
そのデータから、熊谷市の現状を見てみましょう。

【調査概要】
対象：市民2,500人(男女各1,250人)
抽出方法：住民基本台帳からの等間隔無作為抽出
回収結果：有効回収数 1,118人
有効回収率 44.7%

1.男女の地位の平等感

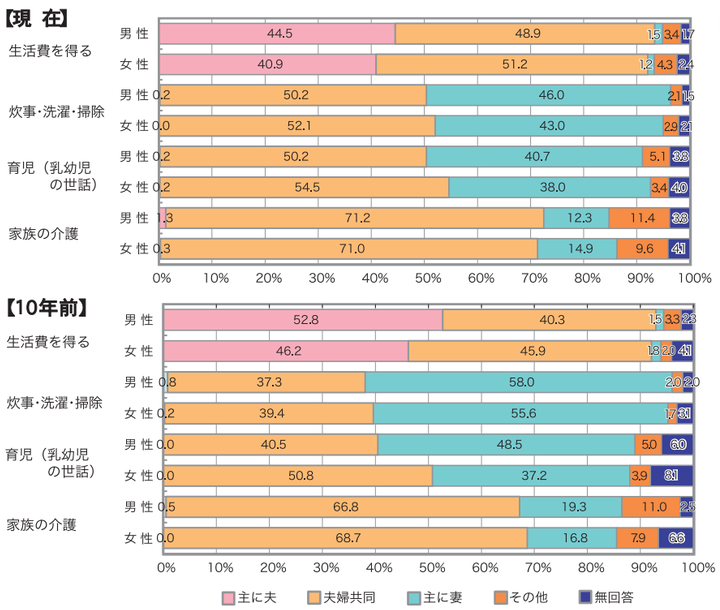
各分野について調査を行ったところ、「社会通念・慣習・しきたりなど」や「政治の場」について、男性が優遇されていると考えている人が多くなっています。

また、「全体として」を見ると、女性の69.9%が男性が優遇されていると考えており、どの分野も男性より女性は、男性の方が優遇されていると感じている割合が多くなっています。



まだまだ、男女共同参画社会への推進が求められているね。

2.夫婦の役割分担意識



10年前の調査と比べてみたところ、「炊事・洗濯・掃除」について、男女共に「夫婦共同」が良いと考えている人が12ポイント以上増えています。

また、「家族の介護」については、10年前から「夫婦共同」と考えている人の割合が高く、今回の調査でも男性71.2%、女性71.0%となっています。

「育児」については、「夫婦共同」と考えている男性の割合が9.7ポイント増加しました。

どの項目も10年前より、「夫婦共同」と考える人の割合が増えているね。

輝いてます！

街で出会ったいきいきさんをご紹介します

演奏家、指導者、そして母として

ピアニスト 小山（こやま） 里巴（りは）さん（美土里町）

深谷、熊谷で育った小山さんがピアノを始めたのは四才の時。大宮光陵高校音楽科、桐朋学園大学に進学。数々の賞を受賞し、ピアニストとして歩み始めます。

川口リリアでのソロリサイタル、小中学校の芸術鑑賞会での演奏、ピアノ講師、合唱団の指導、伴奏者…。ピアニストとして国内外の演奏会に出演し、多岐にわたり活躍中です。

いろいろなシチュエーションで演奏するのは大変だけれど楽しいとおっしゃる小山さん。ソロの時は、曲から受けるインスピレーションを大事にして、自分の奏でる音色を追及していきます。一方、伴奏をする時は、相手を引き立てる事を意識しつつ、どんな音楽を作り出したいのか話し合い、一緒に音を作る喜びがあります。

大学の同級生と結成したピアノユニット「KARTY」では、一台あるいは二台のピアノを四人で弾く連弾など、息の合ったアンサンブルが魅力で、活動は十年に及びます。

昨年、夫でオペラ歌手の原田勇雅さんが熊谷少年少女合唱団の音楽監督に就任。小山さんも共に指導、伴奏を担当。お二人で地元熊谷市の音楽の発展、音楽家の育成にも尽力されています。

取材させていただいたのは、第一子をご出産されて間もない頃、赤ちゃんを抱いている姿はまさに輝いていらっしゃいました。「音楽は、気持ち、環境の変化などで常に変わってゆくもの。出産子育てを経て、私がどう変化するのか、どんな音色が出るのかわくわくしています。」とのこと。母としても輝く小山さんの音楽、私達も楽しみにしております。







関口 道子さん（下奈良）の作品

◆「ひまわり」編集員 公募のお知らせ

本紙「女（ひと）と男（ひと）の情報紙ひまわり」の編集員を募集します。

募集人員 1人

応募資格 市内在住の20歳以上の方で、男女共同参画に関心があり、左記の活動ができる方

活動内容 ①編集員会議（毎号3回・平日の午前中）②取材活動（随時）③原稿の作成

委嘱期間 2年間

応募方法 応募動機と男女共同参画の推進に向けた考えを800字以内にまとめ、住所・氏名・生年月日・職業・電話番号を明記し、3月15日（木）までに熊谷市男女共同参画推進センター「ハートピア」へ直接ご提出ください。

パープルリボンキャンペーン

「女性に対する暴力をなくそう」という国際的なキャンペーンのシンボルであるパープルリボン（むらさき色のリボン）。

みんなの思いを集めて、DVのない社会にするため、ハートピアを訪れた方にむらさき色のリボンを作っていただき、タペストリーの袋の中に入れてもらいました。

このタペストリーは、キャンペーンに参加した埼玉県内の市・町を順番に回り、熊谷市には平成29年10月3日から6日まで展示されました。



展示されたタペストリー

ひとりで悩んでいるあなた、一度相談してみませんか？

配偶者や恋人など親密な関係にある人からの暴力（DV）に悩んでいる方、自分が我慢すればと思わずに、相談してください。

DVはくり返されることが多く、犯罪にもなりうる行為です。

どんな小さなことでも、相談員がお聴きし、一緒に考えます。

電話相談は匿名でもお受けしていますので、まずはお電話ください。

◆ハートピア相談室 ☎048-599-0015

相談名	相談日	時間
電話相談・面接相談（予約不要）	月～金曜日、第1・第3土曜日（祝日、年末年始を除く）	9:00～17:15
弁護士による相談（要予約）	隔月1回（奇数月）	10:10～11:40
臨床心理士による相談（要予約）	毎月1回（第4金曜日）（祝日の場合は変更）	9:00～16:00
保健師による相談（要予約）	毎月2回（第2・第3水曜日）（祝日を除く）	13:30～15:30

（各相談とも無料・秘密厳守）

編集後記



年二回、お届けしている「ひまわり」ですが、原点に立脚して前号では「ハートピア」のご案内を、今回は「男女共同参画」に関するアンケート結果から特集させていただきました。

編集員も新婚、子育て只中、初孫支援、等々幅広い年代です。会議中新たな視点に気付いて新鮮です。情報紙「ひまわり」から、より多くの市民の皆様が何かを発見していただけますように願っています。

〈編集員〉
秋元留美子
清水 治美
柴生田幸子
折原 芳郎

募集

★表紙やカットとして掲載する「ひまわり」の絵・写真・その他の作品を募集します。

★「輝いてます！」（市内で活躍されている方の紹介）のコーナーに登場してくださる方を募集しています（自薦・他薦は問いません）。

※両募集とも、応募多数等により掲載にならない場合がありますが、どうぞご了承ください。

★本紙へのご意見、ご感想をお寄せください。

【応募・問い合わせ】

〒360-0037
熊谷市筑波二丁目202番地ティアラ21（4階）
熊谷市男女共同参画推進センター「ハートピア」
・TEL 048-599-0011
・FAX 048-599-0012

PRINTED WITH SOY INK 環境にやさしい大豆インキ

■発行日 平成30年3月1日（年2回発行） ■発行 熊谷市 ■編集 男女共同参画室（ハートピア内）・「ひまわり」編集員会
「ひまわり」Vol.25は、71,000部作成し、印刷・製本にかかる市の負担は、1部当たり4.52円です。